

鈴木商店調査書「造船業」「株式会社播磨造船所」（原書 P67～74）

造船業（原書 P67～68）

欧州戦乱後、軍需品輸送用其他戦過（原文ママ。正しくは“戦禍”か）破損沈没等の為め世界的船腹不足を訴へ、為に海運界は未曾有の活躍を呈し、同時に造船業の殷賑は之亦空前の活況を見るに至れり。

炯眼なる同店は早くも斯界の将来に着眼し、其第一歩として大正四年十二月播磨造船所を勢力圏内に入れ、次で昨五年十二月鳥羽造船所を、本年 月 船渠株式会社を買収し、尚神戸製鋼所に造船部を設置し、本年末迄には設備完成の予定なるが、前記三造船所も鈴木商店の経営に移りし以来、資本を増加し規模の拡張を図り、各完成の暁は本邦有数の一大造船所たるに至るべし。

而して、之に要する投資額は現下約貳百萬円内外にして、将来は約壺千萬円内外の予定なるが如し。

以下、各造船所に就き順次略記すべし

株式会社播磨造船所 兵庫県赤穂郡相生町（原書 P68～74）

設立 明治四十一年

目的 造船諸機械製造及一般鉄工業並に船舶業

資本金 五拾萬円也 払込 参拾七萬五千円也

重役の氏名

取締役会長 松田茂太郎 専務取締役 辻 湊

取締役 西村和平 取締役 松田万太郎

監査役 坪田十郎

会社の沿革 現況

同所は明治四十一年、県下赤穂郡相生町 付近の有志相謀り小規模の造船所を創設し、越えて四十四年、高橋為久氏が同港の位置、水深共に造船所設置に好適し、而も優に一萬噸以上の汽船を容るるに足るを以て、之を拡張せば一大造船所と為し得べきものなるを看取し、茲に前記造船所を買収し次で四拾五年六月、資本金五拾萬円に増資し、高橋氏社長となり経営の衝に当りしが、当時海運界は非常の沈衰期になりしかば、従て造船業も不振にして同所も連年欠損の状態に陥り、経営頗る困難なりき。

然るに、鈴木商店に於ては欧州戦乱以来海運界の活躍に着目し、適當の造船所物色中、前記播磨造船所長高橋氏より資金融通の交渉を受け、渡りに船と直ちに約六十萬円を融通し、一方株主として約八千株を所有するに至る。

此所に全く実権は同店の掌握する所となり昨五年七月、重役を更迭して同店の経営に移せり。尔来設備を拡張して一万噸級迄の船台を五基と為し、専ら世需の急に応じつあり。

而して、同社経営後は独逸の無制限潜航艇戦の爲め船舶の撃沈せらるるもの夥しく、従て聯合國側は船腹激減し、其結果本邦に其供給を仰ぐこととなり、自然各造船所は到底注文に應ずる能はざるの状況を呈し、遂に各造船主は造船契約成立の上は之を権利として他に転売し、多額の収益を見る状態となれり。

従て、一般に造船所の利益も多大となり、殆ど船価の四割は純益として計上し得るが如き好況を呈せり。収益如斯なるを以て、従来欠損に欠損を重ねし同社も業績一変し、六年上半期決算に於ては前期繰越損失拾萬貳千余円を補填し、尚且つ七拾參萬六千余円、即ち囊込資本に対し年三十九割二分と云ふ大利益を計上するに至れり。

以て、同店の先見の当れる將に称揚に値すべきが、過般船舶管理令発布以来、海運界は沈衰状態に陥り、全然思惑的仲介売買及造船注文等の取引行はれざると一面鉄材の供給意の如くならざる結果、造船業者中には維持困難のものも往々伝へらるる所なるも、同所は来年六月頃迄の材料を抱擁し、且造船契約も明年四月頃迄契約済となり居り、現在に於て解約等の問題も起り居らざる状態なれば、差当りの苦痛は感ぜざるものの如く、且つ同所は飽迄強氣の意見を持し居るを以て、現下の沈衰状態に対し比較的樂觀し居れり。

目下建造中のもの総噸数三千噸級二隻、千貳百噸級一隻にして、来春二月頃進水する予定なりと。

尚、同所の本年上半期決算左の如し

(単位：円)

資 産 之 部		負 債 之 部	
未払込株金	125,000.00	資本金	500,000.00
振替貯金	208.84	借入金	36,423.79
受取手形	305,000.00	支払手形	2,539,835.36
仮払金	1,944,917.02	割引手形	305,000.00
製修勘定	1,734,709.34	未払金	737,587.96
未収入金	256.24	仮受金	438,247.71
土地	97,282.36	職工職員積立金	2,185.82
家屋構築物	109,962.95	銀行勘定	14,893.64
船渠	95,759.34	当期利益金	839,150.95
船舶	17,857.21		
機械	124,710.82		
工具	50,474.06		
什器	4,927.07		
貯蔵品	690,794.86		
工場拡張工事費	8,521.34		
現金	264.16		
出張所勘定	95.53		
前期繰越損失金	102,584.07		
合計	5,413,325.23	合計	5,413,325.23

利益金処分

金 八拾参萬九千百五拾円九拾五銭	当期利益金
同 拾萬貳千五百八拾四円〇七銭	前期繰越損失金
差引 金 七拾参萬六千五百六拾六円八拾八銭	当期純益金

内 金 五萬円也	準備積立金
〃 拾萬円也	機械建物減価償却積立金
〃 壹萬円也	職員退職恩給基金 同
〃 七千円也	役員賞与金
〃 六萬七千五百円也	株主配当金 (年四割三分強)
〃 五拾萬貳千六拾六円八拾八銭	後期繰越金